

ご家族・介護者の方へ

誤嚥にご注意ください

症状が進行すると、飲み込む機能が衰えて飲食物や唾液が気管に入ってしまうことがあります。飲食物や唾液とともに誤って入った細菌により、誤嚥性肺炎を引き起こす可能性があるため、注意が必要です。



..... 誤嚥を防ぐポイント

パサパサした食べ物はやわらかく煮込んだり、スープなど液体のものはとろみをつけると飲み込みやすくなります。



食事の際は椅子やテーブルの高さなどに気を配り、正しい姿勢（軽い前傾姿勢）をとるようにしましょう。



うがいや軽い歯みがきでお口のなかを清潔にしておくことが大切です。



お水やお茶などでお口のなかを湿った状態にしてから食事に入りましょう。



ドネペジル塩酸塩錠/OD錠「オーハラ」を服用されるレビー小体型認知症患者さんのご家族や介護者の皆様へ



RMP



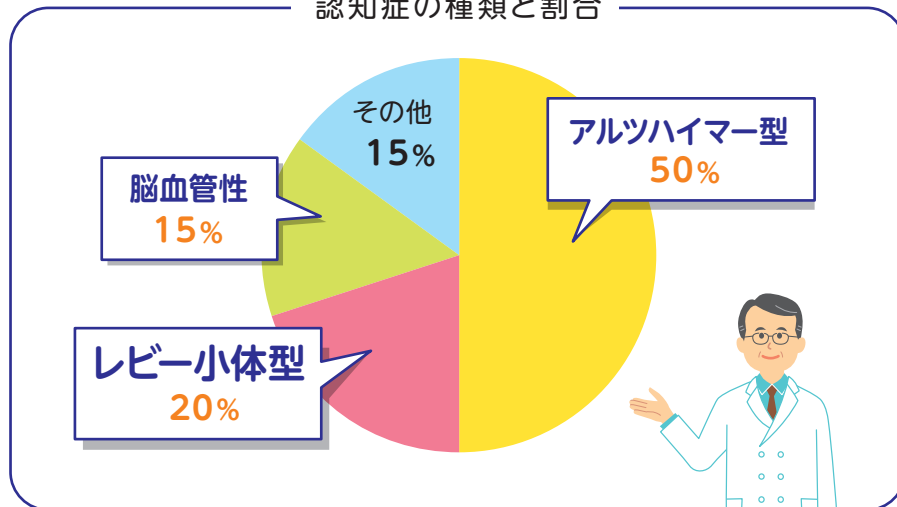
製造販売元 大原薬品工業株式会社
滋賀県甲賀市甲賀町鳥居野121-15

レビー小体型認知症とは

三大認知症の1つです

認知症はその原因によって多くの種類に分類されており、最も割合の高いアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症を総称して三大認知症と呼んでいます。レビー小体型認知症は略してDLB (dementia with Lewy bodies) と呼ばれることもあります。

認知症の種類と割合



レビー小体型認知症サポートネットワークのホームページより引用

脳内に「レビー小体」という物質が現れ、認知症の原因となります。

レビー小体は神経細胞に現れる異常なタンパク質です。レビー小体型認知症ではレビー小体が脳に広く分布しており、それが認知症の原因と考えられています。

レビー小体型認知症の症状①

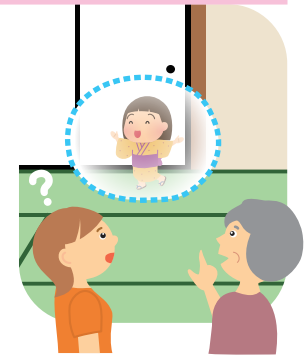
認知機能障害

もの忘れや、覚えられなくなったりするなどの記憶障害が認められます。ただし、アルツハイマー型認知症と比較すると、初期のレビー小体型認知症では記憶障害が目立たないこともあります。また時間や今いる場所がわからなくなったりするなどの症状が認められます。



幻視・錯視

「幻視」とは実際にはないものがそこに存在しているように見える症状です。人や動物などが多く、「家の中に知らない人がいる」など具体的にみえることが特徴です。また「虫かと思ったらゴミだった」など、実際に存在しているが誤った認識をしてしまう「錯視」も起こります。



認知機能の変動

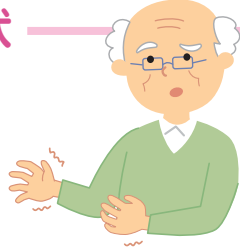
日や時間帯によって、頭がはっきりして調子が良い状態と、頭がはっきりせずぼーっとしている状態が入れ替わり起こり、その変動を繰り返しながら進行していきます。



レビー小体型認知症の症状②

パーキンソン症状

パーキンソン病のような症状が出ます。手が震える、筋肉がこわばる、動きが鈍くなる、小刻み歩行、無表情、転びやすいなどの症状です。



睡眠時の異常行動

眠っている間に暴れたり、大声で叫んだりすることがあります。これらの症状はレム睡眠中に起こりやすく、レム睡眠行動障害とも呼ばれます。

※レム睡眠中は、身体は寝ているが脳は活動している状態です。



自律神経症状

レビー小体型認知症では自律神経がうまく機能せず、身体に様々な不調が現れます。のぼせ、失神、立ちくらみ、便秘、多汗・寝汗、尿失禁などの症状が出ます。



抑うつ症状

レビー小体型認知症の初期症状として、抑うつ症状が高い割合で認められます。元気がない、何もしようとしめないなどの活動性の低下が目立ちます。



服用にあたって



お薬の服用にあたっては、主治医から指示されることを守ってください。

1 ドネペジルとは

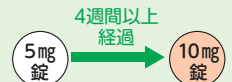
このお薬はレビー小体型認知症でみられる認知機能障害の進行を遅らせるお薬です。症状に変化がなくても、何も治療しない場合と比較して、症状の進行を遅らせていると考えられます。

2 お薬の量は主治医の指示に従ってください。

黄色の錠剤(3mg錠/OD錠)を1錠飲ませてください。
1~2週間後に白い錠剤(5mg錠/OD錠)1錠になります。



白い錠剤(5mg錠/OD錠)で4週間以上経過したら、
オレンジ色/淡赤色の錠剤(10mg錠/OD錠)1錠になります。



3 1日1回飲ませてください。

4 飲み忘れても、2日分を一度に飲ませないでください。

5 お薬を飲むことをあなたの判断で中止しないでください。

6 過量に飲んでしまった場合は直ちに病院へ連絡してください。

このお薬の主な副作用

下記の症状が現れることがあります。



悪心・嘔吐

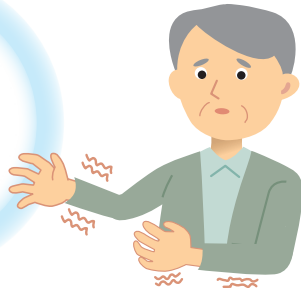
食欲不振



便が
軟らかくなる



パーキンソン
症状が
悪化する



いつもと違う症状が持続したり、
激しい場合には医師や薬剤師に
相談してください。



ご家族・介護者の方へ

転倒にご注意ください

レビー小体型認知症では小刻み歩行などのパーキンソン症状が現れるため、つまずきや転倒のリスクが高まります。起き上がったたり立ち上がった際に、めまいやふらつきにより倒れたり失神を引き起こす危険もあります。



転倒を防ぐポイント

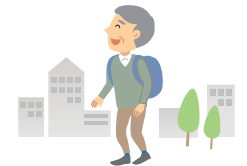
家の中ではできるだけ段差を作らないようにし、新聞や雑誌などすべりやすいものやつまずきやすいものは無くしましょう。



手すりなどが付けられる場合は付け、付けられない場合は、背の高くない安定した家具を置き、手すり替わりにしてみましょう。



裾の絡まりやすい服やサンダルを着用しない、両手が自由になるようにリュックを活用するなど、服装にも気を配りましょう。



急に後ろから話しかけると、びっくりして転倒につながります。正面から表情を見て話しかけましょう。

